

総合的な学習

エスコートプロジェクト in Hiroshima

泉 谷 正 則

1. はじめに

本学校園では、9年生（中学校3年生）で、総合的な学習の時間における単元として、「エスコート・プロジェクト・イン・ヒロシマ」と題した学習を行っている。

この活動は、広島平和記念公園やその周辺の施設で、外国の方を案内したり、一緒に昼食をとったり、平和について意見交流をしたりするものである。

この単元は数年前から行っているものであるが、この活動に向けてのアプローチはその年度の生徒実態や担当する指導者によって様々である。そこで、本稿では、今年度の実践を整理し振り返ることと一つの学習指導の在り方を提案する。

2. 目的と学習の流れ

本単元の目的は次の通りである。

- 広島平和記念公園と公園内慰霊碑及び周辺施設をガイドすることを通して、平和について考え、平和について自分なりの意見を表現できるようにする。
- 外国の方と積極的にかかわり、両国の文化や考え方の違いを理解しながら、相手の立場に立ったコミュニケーションの取り方を身に付ける。

この目的にそって、学習は、「平和についての学習」と「コミュニケーションの学習」の2つの柱で行った。週2時間のうち、1時間は平和について、もう1時間はイングリッシュタイムとして英会話の学習をするというものである。

本単元の大まかな流れは次のようなものである。
〈一次〉

平和について調べたり考えたり、意見を発表したりしながら、平和について自分なりの考えを深め、外国の方と意見の交流ができるようにしていく（他国の状況について、また、原爆について学習をしながら）。

〈二次〉

平和公園等の資料を見ながら、自分たちなりのガイドコースを設定する。

〈三次〉

グループでガイドするポイントを分担し、その内容を調べ、さらに、そのポイントについて自分なりの意見を表現できるようにする。

〈四次〉

エスコートで使う英語表現を学び、ロールプレイをする。

〈五次〉

役割分担、動き、平和集会の流れを知る。（エスコート本番）

〈六次〉

エスコートの様子や感想をまとめ、外国の方への感謝の手紙となるようなボードを作成し、プレゼントする。

〈七次〉

エスコートでの活動をまとめ、振り返る。

3. 本単元の学習指導

先に述べた、学習の2つの柱、「平和についての学習」と「コミュニケーションの学習」について整理する。

【平和についての学習】

平和について考えを深めるために、次の2つのことを視点として学習を計画した。

- 意見交流会で、自分の平和に対する考えを伝えたり、また、外国の方の考えを少しでも理解することができるよう、国際的な視点での平和について学習できるようにする。
- 公園内及び周辺の取設や慰霊碑を案内する際に、ただ事実を伝えるのではなく、それらについて自分の感じたことや考えたことを伝えることができるようにする。

以下、この2点について、学習の実際を述べる。

まず、「平和とは？」という根本的な視点について現在の自分たちの考えを整理した。そして、それをもとにしながら、国際的な視点で知識や考えを深めていった。この学習は、BS（ブレインストーミング）、KJ法、ダイヤモンドランキングといった思考法を利用しながら、次の6つのステップで行った。

- BSで、「平和でないこと・状態」というテーマについて、あてはまる言葉をできるだけ多く考え、グループで交流する。
- KJ法によって、似たものをグルーピングする。そして、そのグループの内容を表すキーワードをつける。それにより、自分たちの考えを整理するとともに、グループに入らない言葉についても、その価値を考えるきっかけにする。
- ダイヤモンドランキングで、テーマについて一番優先されるキーワードを頂点に1つ、一番優先されないものを1つ決め、それらの間にダイヤモンドの形になるようにキーワードを並べていく。そして、そのような形にした理由をグループで話し合い、グループ間で交流する。これによって、テーマに対する他の人の価値観を知り、自分自身の価値観を深める。

生徒の考えた内容は、「広い範囲で大人数が影響を受ける」ものから優先順位をつけるもの、「身近にあったり日常起こりうる不安」から優先順位をつけるもの、「生命の危険」から優先順位をつけるものなど、様々であった。

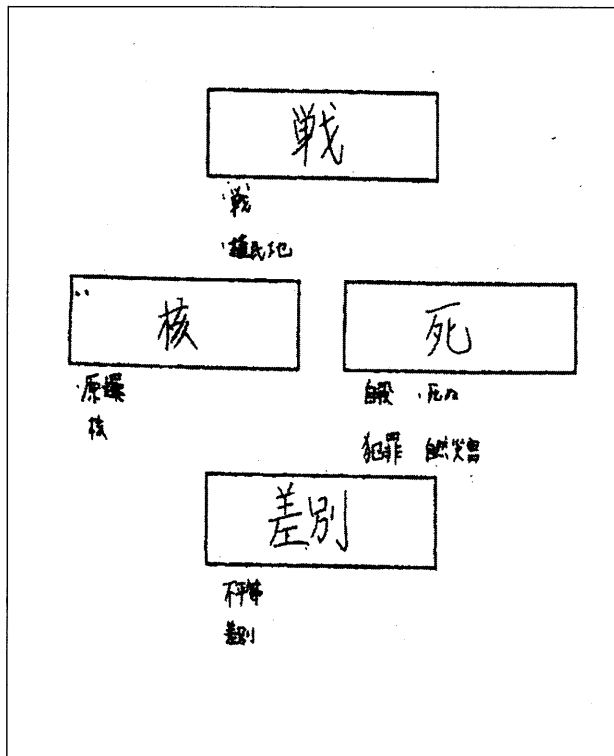


図1 A班のダイヤモンドランキング

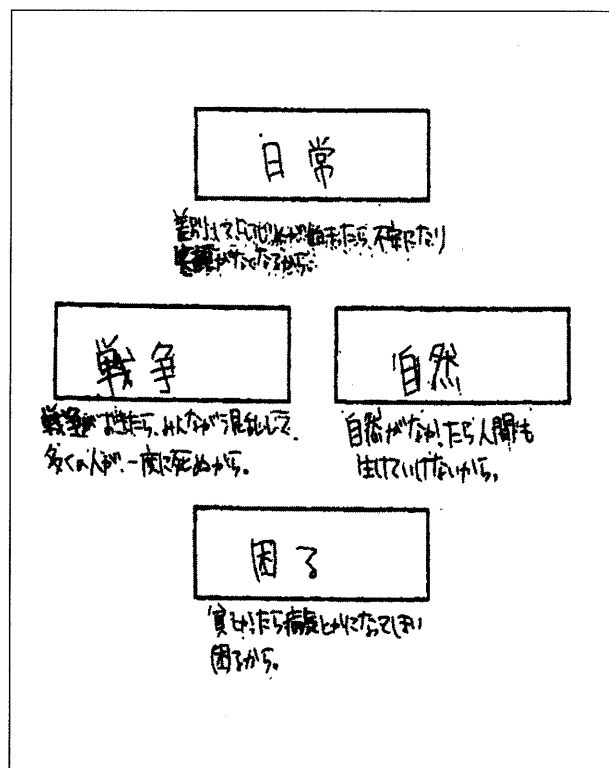


図2 B班のダイヤモンドランキング

A班(図1)は、ランキングについて、「『戦う』ということによって、核が使われて、それによって死者などがでてきているし、歴史的な面では、戦争が行われて植民地にされたり、それによっ

て人種差別が起こったりしているから。差別が一番下になっているのは、差別で確実に人が死ぬとは言いきれない。でも、戦・死・核は確実に命が危険だから。」と説明している。

B班(図2)は、ランキングについて、「『日常』を一番にした理由は、毎日のことだし、差別をしていじめが始まったら不安になり、笑顔がなくなってしまうから。『戦争』を二番にしたのは、多くの人が混乱し、一度に多くの人が死んでしまうから。『自然』は、自然がなくなったりしたら困るからという意味を込めています。」と説明している。

これ以降の学習のステップは以下の通りである。

- 個人で、これまでの学習をもとに、「平和でないこと・状態」について定義する。
- 個人の「平和でないこと・状態」についての定義にあてはまる国を探し、その国について調べる。
- 個人で調べたものを班で交流する。

次に広島についての学習を行った。生徒にとって、広島に原子爆弾が投下されたということを実感することは難しい。そこで、「はだしのゲン」(テレビドラマ)を鑑賞した。次は、生徒の感想である。

- ・原爆が落ちたところが印象に残りました。想像していた以上に爆発が酷かったし、落ちた後の広島には何も残ってなくてとても恐ろしかった。
- ・8月6日、朝から普段の日常と変わらないことをしていたのに、原爆が落ちたことによって、広島の人々は一瞬にして多くのものを奪われてしまったのが辛い。
- ・ゲンのお父さんが戦争に反対をして警察に連れて行かれるシーンでは、「なぜ戦争に反対して非国民と言われなければいけないのか」というゲンの家族の強い思いを感じた。自分が当時の人だったらそう思っても言えない

- と思う。
- ・ゲンが友子(妹)のために歌を泣きながら歌って米をもらえた場面では、ゲンにとって家族がどんなに大切かが分かった。
 - ・草木は生えないだろうと言われていたのに、3つの麦の芽が出た。人々が絶望している中で、広島の人々に勇気を与えてくれたと思います。生命の力はすごいと思いました。
 - ・原爆が落とされたことによって、どのような苦しみがあったか、どのように感じていたかを世界に知ってもらいたい。また、知っただけで終わるのではなく、それを核兵器をなくすことなどの実行に移して欲しいと思います。そのためには、まず広島の人が原爆と向き合っていくことが大切なので、知識を深めていくことができたらいと思います。本当の平和は何かということを経験中が考えて欲しい。私が思うには、みんなが安心して過ごしていける世界です。まずは、核兵器をなくすことです。

このように、生徒は、ドラマの観賞を通して、その時代の社会的な背景や人々の心の動きを自分なりに感じる事ができた。

次に、グループでどのようなコースにするかを考え、誰がどの慰霊碑を案内するのかを決めた。次は、ある班のガイドコースとそのコースの設定理由である。

- 〈コース〉
- 原爆ドーム 13:00→
 - 平和の時計塔 13:15→
 - 平和の鐘 13:25→
 - 原爆の子の像 13:35→
 - 平和の灯 13:45→
 - 原爆死没者慰霊碑 13:55
- 〈コース設定理由〉
- 案内する碑は全て、当時の原爆での犠牲者のことを思って作られたものなので、ここを案内することで、外国の方に、少しでも“*No more Hiroshima*”を訴えることができたらいと思います。

ます。また、この碑を通して、平和を作ろうと努力してきた日本の人々の思いを感じてもらえればいいなと思い、このコースをガイドしようと思いました。

この段階から、「平和についての学習」と「コミュニケーションの学習(イングリッシュタイム)」を統合し、碑の案内文を英語で伝える学習を行った。次は、「平和の灯」の案内を担当した生徒の考えた碑の案内文である。碑についての説明だけでなく、自分が感じたことや思いを表現できるようにした。生徒が伝えたい内容を英文にしていこうという作業は内容的に難しく、また、案内文の分量を多く設定したことから、指導を細かく行うことができなかったことが課題となった。

〈日本語文〉これは、平和の灯と言います。これは、手首を合わせ、手の平を大空にひろげた形をしています(ジェスチャーで実際にやりながら)。1964年に作られました。作られた目的は原爆によって火傷を負い、水を求めていた多くの犠牲者を慰めるためです。火傷を負った人は水を求めたい一心で生きており、水を得て満足し、死んでしまう人もいたそうです。他にも核兵器廃絶と世界恒久平和を求めるためにも作られたそうです。この平和の灯は火がつかず、この火は、核兵器が地球上から姿を消す日まで、燃やし続ける、をテーマにしています。今、世界では、核兵器の開発が続く国があります。核兵器の恐ろしさや悲惨さをこの碑によって感じて欲しいなと思います。

〈英文〉 This is called "heiwa no tomoshibi". This is called "flame of peace" in English. This shape looks like to put together wrists and open the hands to the big sky. This was made in 1964. The purpose to build is to solace the souls of people looking for the water. To get water is the only wish for the burned people. So they died soon after. Other purposes are asking for the

world peace and abolishing nuclear weapons. Can you see the flame? This is not an eternal flame. It will be put out when there are no more nuclear weapons on the earth. Now, there are countries which have kept developing nuclear weapons in the world. I think the people living in these countries can feel fear and the pathetic sight by visiting the peace park. So, I hope many people living in different countries understand the A-bomb to see this flame of peace.

これだけの内容を覚えて伝えることも難しく、実際に案内をする場面でも英文を読む姿が多かった。案内文の量を少なくし、より正確な英文にすること、そして、それを覚えて案内できるようにすることが改善点として考えられる。

〈日本語文〉私が考える「平和」とは、笑顔であることです。笑顔は人々を幸せにします。でも、今の世界は平和ではないと思います。なぜなら、食べ物を得られない人たちや勉強することができない子どもたちがいるからです。その人たちは、笑顔で生活できないと思います。私は、とても不平等だと思います。何の罪もない人が幸せでないのはおかしいと思います。これは広島原爆も同じだと思います。今の私たちは、平和について考え直す必要があります。そして、世界中の人が笑顔になることを私は願っています。

〈英文〉 I think that peace is smile. Smile makes people happy. If people couldn't get food and children couldn't study, people can't live without smile. I think it is very unequal.

I can't understand that the people who aren't anything wrong aren't happy. I think that this is also the same thing as A-Bomb of Hiroshima. So, I hope that people of all over the world become smile.

これは、意見交流会の準備として、生徒が考えた平和についての意見文である。ここでも、英文にすることのハードルが高かったが、生徒は電子辞書で調べたりしながらなんとか自分の意見文を完成させていった。

生徒は、丁寧に接してくださる外国の方々に助けられながら、充実した時間を過ごしたようである。一方で、会話が一部の生徒に偏り、あまりコミュニケーションをとれなかった生徒もいた。碑の案内文だけでなく、会話についても時間や内容を分担してこれだけは必ず話をするというものを作っておいただろう良かった。

事後の学習の一つとして、「サンキューボード」と題して、外国の方への感謝の気持ちを表すボードを作成した(図3)。内容は、「出会い」、「昼食」、「碑の案内」、「資料館の見学」、「意見交流会」、「平和集会」といった1日の流れを追いながら、そこでの感想などや感謝の気持ちを英語でまとめたものである。生徒は、写真や折り紙を貼りつけたりしながら、楽しそうにボードを作成していった。

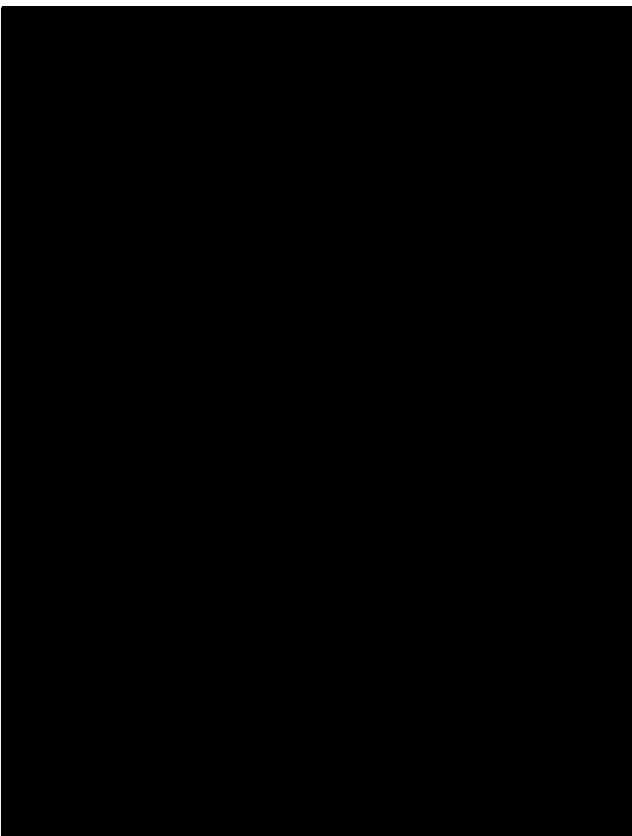


図3 サンキューボード

このまとめ学習では、英文の指導を英語科の授業で行い、ボードの作成を総合的な学習の時間で行うという形で指導を行った。英語科と連携しながら進めることで、英文として正確なものになり、謝の気持ちや感じたこと考えたことが伝わるものになった。

- ・私が特に印象に残ったのは、意見交流会です。留学生さんは、カンボジアで起きた悲しい出来事について話されていました。留学生さんはその事があったからこそ、平和が大切だということ传达了かったのだと思います。
- ・僕は英語で伝えることや聞き取ることはとても苦手ですが、留学生さんの好きな事、日本に来た経緯、様々な事を聞くことができました。また、こちらからも平和公園のこと、自分たちや日本のことを話して伝えられたと思います。きちんとした言葉が話せなくても、伝えたいという気持ちを持つことや、ジェスチャーを使うことで会話をすることができます。また、平和というものはとても奥が深く、とても重要であると感じました。僕たちは留学生さんに平和についてどう思うか意見を求めました。その質問に「私は平和とは力だと思います」と答えられました。平和に対する考えは、人それぞれで様々な意見があります。僕は、本当に平和な世界をつかっていくために、色々な意見を求めていこうと思いました。
- ・平和とはただ戦争のないことだけではないということが分かりました。食べ物が十分に食べられない人々、学校に行けない子どもなど、私たちでは想像できないようなことが色々な国で起こっていることを知って、自分たちは平和だと思いました。私が印象に残っていることはイメージをみんなで歌ったことです。留学生さんの中には涙を流されている方もいて、言葉では伝えられなかった何かを感じ取れたような気がしたからです。そして、他の人にもこのような体験をしてもらえば、平和への思いが変わると思いました。

最後に、生徒は会話のやりとりを全て書き出し、自分の感想をまとめるというレポートを作成した。生徒の中には、ずっと会話をしていたので書ききれないというような生徒もおり時間をかけて沢山の会話のやりとりを打ち込んでいたが、会話ができていない生徒は昼食時も何も話していないとか、碑の案内の時にも会話のやりとりがほとんどなかったという生徒も数名いた。

4. 成果と課題

以上、本単元を整理した。生徒の様子や記述から、本年度の取り組みの成果を次のようにとらえた。

- いくつかの思考法を段階的に取り入れることで「平和とは」というテーマについて考えを深めることができた。
- 「はだしのゲン」を鑑賞することで、インターネットや文献からの知識だけではなく、広島原爆についてより現実的なものとして感じる事ができた。
- 「サンキューボード」を作成することで、外国の方々への感謝の気持ちを表し、また、自分たちの活動を客観的に振り返ることができた。折り紙を折ったり、イラストを描いたり、レイアウトを考えたりといった作業が好きな生徒が多く、このボードの作成を意欲的に行ったことから、本単元への達成感にも繋がった。また、この学習では、英語科と連携しながら、英作文を英語科の授業で行った。それにより、英文が正確で伝わるものとなった。
- 会話のやりとりをデータとして残すことで、自分自身の課題にも気づくことができ、また、後輩へ自分たちの学習を活かしてもらおうという思いも持たせることができた。一方で、以下のことが課題となった。
- 「平和についての学習」で「平和とは」という考えを深めることはできたが、それを「国際的な視点での平和」というテーマで調べていこうとする時、インターネットで調べただけの知

識となり、より心が動くような学習にならなかった。外国の状況について、一例を映像などを交えながら学習してから、個人で調べていくなどの工夫が必要であった。

- 英文作成やその指導に多くの時間を費やしたがそれでも完成度があがらず、当日ファイルを読むような場面が多く見られた。英文を少なく簡潔にするとか、例文を多く提示して英作文にかかる時間を短縮させ、その代わりに、それを覚えて伝えるといったコミュニケーションの方に重点を置くことが必要であった。

以上、本年度のエスコートプロジェクトについて整理し、その成果と課題を述べてきた。外国の方と一日会話をしたり昼食を食べたり、平和について話し合いをしたりする機会はとても貴重なものであり、生徒にとっては将来も心に残る学習になるのではないかと考える。生徒の様子や記述内容からも、ほとんどの生徒がこの学習を貴重な経験としてとらえていた。エスコートプロジェクトは、今後もさらに改善をしながら、また、その年度の色を加えながら、続けていくことができると考える。